



雪谷の清流

平成30年 11月5日発行
岩手県立軽米高等学校通信 28号
文責:副校長 松場 喜美夫

厳粛に創立70周年記念式典挙行 平成30年10月20日(土)

平成30年10月20日、本校第一体育館を会場に、岩手県立軽米高等学校創立70周年記念式典、記念講演会を行いました。

記念式典には、岩手県議会議員工藤大輔様、軽米町議会副議長山本幸男様、岩手県高等学校長協会会長川上圭一様ほか多数のご来賓のご臨席をいただき、協賛会役員、旧職員、一般参加者、在校生、職員を合わせて約250名が参加しました。

11時45分から、ご協力いただく保護者、同窓会の皆様の打合せを行い、12時から受け付けが始まりました。次々と来校されるお客様を係の生徒たちが控室に案内しました。12時35分、「真理の鐘」が鳴らされ、式典の開幕を告げました。協賛会役員、旧職員、来賓が入場され、感謝状を授与される歴代校長、学校医・学校薬剤師、歴代PTA会長、前同窓会長の皆様が入場し、物故者への黙祷の後、開式が告げられました。



高橋正勝校長は式辞で、「本校は現在、草創期同様、生徒数の確保に努力しております。生徒数の減少は、部活動や学校行事に少なからぬ影響を与えておりますが、生徒たちの高校生活を送る意気はますます盛んです。それは、生徒が自ら、溢れる夢や希望に向かって志を高く持ち、頑張るべき今を精一杯生きているからです。生徒諸君、ぜひ軽米高校入学時の揺るぎない誓いを貫徹し、君たちの才能を開花させていってください。」と述べました。

次いで、記念事業協賛会長でいらっしゃる軽米町長山本賢一様から、「創立70周年を契機に輝かしい歴史と伝統に立って、さらに揺るぎない伝統を創造し、町勢発展並びに躍進軽米が今後とも一層推進されますよう願います。」とあいさつされました。

〇感謝状受賞者

【歴代校長】

- ・第24代 高橋光彦様
- ・第25代 笹山眞澄様
- ・第26代 佐藤 尚様
- ・第27代 熊谷拓也様
- ・第28代 泉 悟様

【学校医・学校薬剤師】

- ・元学校歯科医 故 堀米榮一様
- ・元学校医 故 洲崎啓治様
- ・元学校医 木澤純也様
- ・学校医 横島孝雄様
- ・学校医 洲崎 洋様
- ・学校薬剤師 畠澤徳行様

【歴代PTA会長】

- ・第34代 江刺家雅弘様
- ・第35代 木戸口春彦様

【歴代同窓会長】

- ・第7代 園田喜一様

平成20年に行われた創立60周年以降、本校の教育振興に尽力された方々に感謝状を贈呈いたしました。お贈りしたのは左の方々です。さらに、今回の記念事業協賛会の会長をお引き受けいただき、準備会議や当日の会長業務を滞りなく終えられた山本賢一様に感謝状を贈呈いたしました。

その後、岩手県議会議員工藤大輔様、軽米町議会副議長山本幸男様、岩手県高等学校長協会会長川上圭一様からご祝辞を頂戴いたしました。

最後に、前生徒会長大鳥直樹君(3年)が、校歌にある「真理の灯台 輝ふ窓に」という一節のように、軽米高校は、町のどこからでも見える灯台のような場所。人生で迷ったとき光を照らしてくれる場所。時代に合わせて変化しながらも、変わらない伝統を守り、足並みをとどろかせていく、と決意を表明し、あいさつしました。

続く講演会では、「ビリギャル」こと小林さやか様から、「やってみなきゃ わかんないっしょ!」と題して、ご講演をいただきました。

見かけによらぬパワフルな弁舌で、用意した水も飲まず、100分間ノンストップでお話をいただきました。



た。秋のさわやかな天気も、本校70周年を祝福してくれたようなすばらしい一日となりました。ご参加いただいた皆様、ご協賛いただいた皆様に、心より御礼申し上げます。



記念講演会 講師：小林さやか 様 演題「やってみなきゃ わかんないっしょ!」

小林さやか 様 プロフィール

1988年 名古屋市生まれ
受験体験が『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶応大学に現役合格した話』(坪田信貴著)や映画「ビリギャル」で紹介されました。現在はウエディングプランナーの傍ら、学校や企業での講演会を行っていらっしゃいます。

講演会要旨 一部前掲書より引用

小学校では、友達と上手くつきあえず、環境を変えて誰も知らない学校に行こうと、大学まで一貫の私立中学を受験して合格しました。友達もたくさんでき、楽しい学校生活でしたが、次第に生活が乱れ、スカートが短くし、髪の毛を染め、校則違反を繰り返すようになりました。

中学校3年の時、タバコが見つかり、母親(「ああちゃん」と呼ぶそうです)が学校に呼ばれ反省を促された際、ああちゃんは「娘は友達思いの優しい子です。私はこの子を誇りに思いません。」と言ってくれました。母のような大人になりたい、母を泣かせたくない強く思いました。

高2のある日、その日は弟のためのある塾の入塾面接だったのですが、弟が行けなくなったので代わりに行ってほしいとああちゃんに頼まれました。そこで会ったのが坪田先生でした。坪田先生は、「君みたいな子が慶応大学に受かったら面白いよ」と受験を勧められ、何かウケるので「いいよ」と言ってしまう、ああちゃんに「さやか、慶応受けることにした」と報告しました。ああちゃんは、さやかのワクワクが見つかったと大喜びでした。

しかし、中高一貫校で全く勉強しなかったため、成績は学年ビリから10番以内、偏差値30の状態。坪田先生の前で、「聖徳太子」を「せいとくたこ」と読み、Japanの意味を日本ではなくジャパンと答えました。それでも坪田先生は、「君って天才だね。」と褒めてくれ、小学校4年生のドリルからやり直し、1日15時間も勉強しました。学校でも勉強していると「慶応受けるんだって」って冷やかす者もいましたが、「慶応受けるよ」と公言して歩きました。すると学校の先生からも迷惑だからそういうことを言うなと言われました。

高2の冬から週5で塾通い。成績は上がってきましたが、高3の模試でE判定。「もうやめたい」と思ったこともあり。ある時、ああちゃんが月謝の入った封筒を塾に届けるよう言いました。坪田先生に手渡すと、「この封筒の重みを絶対に忘れるな」と言われました。弟しか興味のない父親は私のために全くお金を出してくれませんでしたから、ああちゃんがアルバイトし、弟妹の学資保険を解約し、親戚に頭を下げて工面したお金だと後から知りました。

ある日高校に呼び出されました。授業中に寝ているのでなんとかしてください、という内容でした。ああちゃんは3時間粘って「この子は慶応に行く子なんです。寝かせてください。」とお願いしました。ああちゃんは、娘を「いい子」に育てるのではなく、「ワクワク」に挑戦させたかったのです。翌日から、私は、枕を持って学校に行きました。

受験勉強のことは本に書いてありますし、連絡をくれたら丁寧に教えますよ。

さて、いよいよ受験。腕試しに上智と明治を受験。本命の慶応文学部の試験には失敗し(そのお話しは本で読んでください)、残りは過去問の出来が最悪だった慶応の総合政策学部。試験科目は英語と小論文。英語は成績が上がっていましたが、小論文が課題でした。そして、合格。

皆さんに言いたいことは次の5つ。

- 1 ワクワクする目標をつくろう
- 2 根拠のない自信を持とう
- 3 具体的な計画を立てよう
- 4 目標や夢を公言しよう
- 5 憎しみをプラスに変えるべし

大事なことは、やったか、やんないか。死ぬ気で努力した先には、死ぬ気で努力した人たちが居る(ワクワクする人たちが居る)。そういう環境って面白くない?まずは、自分が本気になること。本気になること周りが変わってくる。高校生の今、結構いろんな事があるでしょ?自分にとっては大事件でしょ。でも、大人になるとたいしたことなかったと思えるはず。学生のうちにいっぱい失敗する。大丈夫、学生は(子どもは)守られているんだから。いっぱい失敗して、大切な人を守れる人になってください。幸せな人生は、いっぱいの人に愛される人生。感謝できる人になろう。